

(別添)

平成 26 年 9 月御岳山噴火に伴う降灰に関わる技術対策について

平成 26 年 9 月 27 日
農 業 技 術 課

【予防対策】

(1) 野菜及び花き

ア 収穫期の葉菜類は、被覆資材を降灰前にできるだけ被覆する。収穫期のものは、収穫を急ぐ。

イ 花き育苗床は、寒冷しゃ、ビニールなど被覆資材で被覆ができるように準備し、降灰に備える。

(2) 飼料作物

ア 噴火による降灰は相当長い期間被害を与える恐れがあるので、危険区域外に飼料作物を確保する。

イ 屋外にある乾草、稲わら等は集積してポリフィルム、またはビニールフィルムで被覆する。

【事後対策】

(1) 共通

ア 降灰により商品性の低下などが懸念される。降雨により細部に流れ込んだり、固まったりする心配があるので、農作物に積もった灰は、できるだけ速やかに除去する。

(2) 水 稲

ア はぜかけ中の稲は、灰をよく落としてから脱穀作業に移る。また、まだはぜかけ期間のものは、再度の降灰に備え、被覆資材を用意してもよい。

(3) 果 樹

ア 降灰を受けた場合は、散水して灰を除去する。

イ 収穫期に達したものは除灰し、速やかに収穫する。なお、出荷に際しては、以降も出荷団体と充分協議をし、クレームとならないよう留意する。

(4) 野菜及び花き

ア 降灰を受けた場合は、水洗いをする。

イ 結球して収穫期に達したものは速やかに収穫する。なお、出荷に際しては、以降も出荷団体と充分協議をし、クレームとならないよう留意する。

ウ きくの葉に積もった灰は、水をかけると固まってしまう流れ落ちなくなるので、フラワーネットを持って茎を揺するなどして灰を落とす。なお、朝露や降雨でも灰が固まるので注意する。

(5) 飼料作物

- ア 放牧中の家畜は直ちに下牧させ、降灰で汚れた牧草を採食させないようにする。特に馬は敏感で疝痛を起こしやすいので注意する。
- イ 降灰で汚染した河川の水は、原則として飲ませないようにする。
- ウ 刈り取り期となった飼料作物、牧草は、刈取直前に灰をよく払い落としてから刈り取る。なお、除灰不完全の草は水洗いし、水を切ってから給与する。
- エ ほ場で乾燥中の牧草及び稲わらは反転を繰り返し、除灰してから収納する。
- オ 野外に集積貯蔵中の牧草、稲わらはビニールシート等で被覆し、降灰による汚染を防ぐ。